



ニュースレター登録



コラム アーカイブ

FUJINO STEINER COLUMN

19期卒業生 杉村 朋香 さん Tomoka Sugimura

現在、シュタイナー幼児教育を取り入れた嶺町幼稚園で教諭として働いている朋香さん。思春期のころには反発する気持ちもあったそうですが、今は教える側として、深くシュタイナー教育に関わっています。今の道を選ぶまでの思いやシュタイナー学園で過ごした時間について、お話を伺いました。



▼学園に通いだしたころの思い出はありますか？

クラスは23人くらいで、仲のよいクラスでした。シュタイナー学園では1年生二人ひとりに6年生が「お世話係」としてついてくれます。1学期の間は玄関で6年生が待っていて、教室まで連れていってくれたり、あやとりや折り紙を教えてくれました。マントゥーマンで支えてもらえたことで、安心して学校生活を始められました。大好きな憧れの存在だったので、自分が6年生になったときには同じように1年生を助けてあげたい、安心して過ごせるようにしてあげたいと思いました。深く関わり成長を見守った特別な存在なので、彼らの卒業式も（今年度の12年生はわたしたち19期生がお世話係でした）できることなら見届けたい、という気持ちがあります。

▼好きだった学びはありますか？

コーラスや笛、オイリュトミー（※シュタイナー学校の芸術教科で、言葉や音楽を身体を通して表現する運動芸術）、手の仕事が好きでした。クラスメイトたちは、とにかく外で走り回って遊ぶのが大好き！という子もたくさんいました。が、わたしはどちらかというとゆつくり過ごすが好きなタイプで、手の仕事で習った編み方で家でもブランケットを作ったりしていました。有志で「コーラス部」

も立ち上げました。

▼一方6年生くらいからはシュタイナー教育への反発も感じたときがありました。

6〜8年生くらいで触れられない外の世界を知りたいという気持ちがわきました。でも先生や家族に強く反抗するということはありません、ひとりモヤモヤしていた感じです。数学と英語に苦手意識が芽生え、学びに消極的になってしまつて、学校を楽しめない時期でもありました。それでも8年生最後の8年劇は、クラスとしても思春期の反発もありながら、みんなで劇に向かっていた思い出があります。『緑の蛇と百合姫』というメルヘンの世界観が強いお話の劇だったので、劇を終え、8年生の終わりにクラスで作った文集では担任の先生から「みんなと外の世界を繋ぐ架け橋になることが担任の役割だと思い、この世界の美しさをみんなに伝えたいと思ってきました」というようなメッセージをもらいました。反抗心は持ちつつも、自分たちが大切に守られているという温かさはずっと感じていたので、学園の高等部に進むこと自体に迷いはありませんでした。

▼高等部に進む前に印象的な出来事があったそうですね。

高等部に進む生徒は先生と進学面



卒業プロジェクト発表ではライアー演奏を披露

今は年少さんのクラスで11人の子どもたちを担任として見守っています。成長はそれぞれ、早かったり遅かったりあるけれど、子どもたち一人ひとり、みんなたくさんの可能性を持っている。わたし自身は幼稚園のころ、友だちと遊べない子だったんです。輪の中に入らず、ひとりみんなを観察しているような子でした。通っていたシュタイナー幼稚園の先生は、そういうわたしを尊重してくれていたな、と思うんです。一人ひとりのやりたいこと、可能性を大事に見守ることで、子どもがはずれ、自分を自由に表現できる力を育てていけたらと思うし、その力を持っていると信じて、子どもたちと関わっていきたいです。

▼最後に、シュタイナー教育で得たと思うものがあれば教えてください。

学園に通っていたときは、何も考えていなかったんです（笑）。でも、外の世界に出てみて「自分で考えて形にする」力が培われていたんだな、と気づきました。保育の世界は正解がなく、自分で考え自分で決めて動いていかなくてはならない。専門学校の同級生が「そんなこと言われても」と困っているようなときも、わたしは困ったと感じることはなかったんです。それがシュタイナー学園での12年間で自然と身についていたわたしの力なんだと今では思えます。

生徒の中にあるものを、引き出してくれているような気がします。

▼卒業後、幼児教育に携わろうと決めたのはいつごろなのでしょう？

兄弟が多く、ずっと幼い妹や弟が家にいたこともあり、子どもと遊ぶのが好きでした。それでなんとなく8年生の文集に将来の夢として「保育士」と書いてたんです。そのときはなんとなく書いたのですが、文字として書いたことがずっと自分の中に残り、改めて将来を考えるときにやっぱり幼稚園や保育園で子どもと関わっていききたい、と思うようになりました。高等部では福祉実習があり、シュタイナー幼児教育を実践していない保育園に実習に行く機会がありました。はじめてシュタイナー園以外の保育園で子どもたちと過ごし、シュタイナー教育を客観的に捉える機会になりました。卒業後は幼稚園教諭と保育士の資格を取れる専門学校に進学することを決め、3年間で両方の資格を取得しました。

▼シュタイナー学園を卒業し、専門学校に入りギャップのようなものはありましたか？

シュタイナー学園という守られた世界から出ていく不安はありました。ですが、いざ専門学校に入ったなら、み

▼専門学校を卒業してすぐ、シュタイナー教育を取り入れている幼稚園に勤められたそうですね。

現場に出るとき、どんな園に勤めるかは自分で選ぶことができます。卒業し

▼今年からは担任としてクラスも持っているって聞きました。

今年からは担任としてクラスも持っ